

MIC Worship Service – 2023.03.05

Series: Gospel of the Kingdom

Title: “*What is the Kingdom of God?*” (Part 2)

Text: Selected Scripture

シリーズ：王国の福音

『神の国とは何か？(第2部)』

選択された聖句

Introduction

What comes to your mind when I mention the word, “*kingdom*”? You probably have thought of Benny Dorney and where he comes from -- the United Kingdom! Or, you’ve thought of countries like the Kingdom of Saudi Arabia, Malaysia and Brunei where they are ruled by a king. As of today, there are **43 sovereign states** in the world with a monarch as head of state. There are 13 in Asia, 12 in Europe, 9 in the Americas, 6 in Oceania, and 3 in Africa.

『御国、または王国』という言葉聞いて、あなたは何を思い浮かべるでしょうか？ベニー・ドニーの出身国であるイギリスという国を思い浮かべた人も多いのではないのでしょうか。あるいは、サウジアラビア王国、マレーシア王国、ブルネイ王国など、国王が統治する国を思い浮かべた方もいらっしゃるでしょう。今日現在、君主を国家元首とする主権国家は世界に **43カ国** あります。アジアに 13、ヨーロッパに 12、アメリカ大陸に 9、オセアニアに 6、そしてアフリカに 3 つあります。

So, when we talk about the ***kingdom of God***, you begin to wonder where it is located, what does it look like, or who belongs to that kingdom. First of all, let me tell you that the ***kingdom of God*** refers primarily to God’s kingly power exercised over creation and people. God’s kingdom is a spiritual kingdom. It doesn’t have any geographic boundaries that we can locate on a map.

さて、では、**神の国** というと、それはどこにあるのか、どのようなものなのか、誰がその国に属しているのか、といったことが気になりますね。まずお伝えしますが、**神の国** とは、主に、この世のあらゆるものと人間に対して行使される、『神の主権、王としての権力』のことを指しているのです。 また、神の国は霊的な国です。地図に載っているような地理的な境界線はありません。

Today, we are continuing our series on ***The Gospel of the Kingdom*** and this is the second part of what we have talked about two weeks ago. That is, “***What is the Kingdom of God?***”

We already determined that the Old Testament (OT) Jewish people had already formed their concept of *the kingdom of God*, namely:

今日は、「**王国の福音**」のシリーズの続きで、2週間前にお話しした内容の後編です。私たちはここで、『**神の国とは何か？**』ということ学んでいます。旧約聖書を読むと、ユダヤ人たちが、すでに神の国という概念を持っていたことがわかります。

その『ユダヤ人たちの神の国についての概念』とは、次のようなものでした。

- the eternal nature of the kingdom;
- the kingdom's present and visible aspects in the lives of the ancient Israelites;
- the belief in a future appearance of a superior and more comprehensive kingdom of God.

- 王国は『永遠』である
- 古代イスラエル人の生活から、現在の王国について、また王国とは何かを知ることが出来る
- 未来には、より優れた、より大きな神の国が現れるということを信じる

Upon the incarnation (i.e., God becoming man) of Jesus, He taught about the kingdom by reiterating many of the same ideas present in earlier Jewish thought. However, what is unique to Jesus' teaching is the claim that the kingdom (in some sense) had actually arrived.

イエスが肉体を受け人の体になってからも、イエスは、それまでのユダヤ思想と同じような王国についての概念を何度も教えていました。しかし、イエスの教えが少し違っていたのは、ある意味で『実際には王国は到来している』という主張をしていたことです。

What else do we learn about the Kingdom of God in the other parts of the New Testament (NT) Bible?

では、新約聖書の他の箇所には、神の国について、どのようなことが書かれているのかを見ていきましょう。

I. Kingdom of God in the Book of Acts

まず、『使徒の働き』の中では、神の国についてどのように書かれているのでしょうか。

I. 『使徒の働き』における神の国

A. In the Acts of the Apostles, the risen Jesus continues to teach His disciples about the *kingdom of God*.

A. 『使徒の働き』では、復活されたイエス様が弟子たちに神の国について何度も教えています。

Acts 1:3 - *After his [Jesus'] suffering, he presented himself to them and gave many convincing proofs that he was alive. He appeared to them over a period of forty days and **spoke about the kingdom of God**.*

使徒の働き 1 章 3 節—3 イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現れて、**神の国のことを語り**、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。

B. But, Jesus' disciples persist in their belief of a political or nationalistic kingdom for Israel.

B. しかし、イエスの弟子たちは、イスラエルの政治的、あるいは実際の国家としての王国を信じることに固執してしまったのです。そのことが、使徒の働き 1 章 6 節に書かれています。

Acts 1:6 – Then they gathered around him and asked him, “*Lord, are you at this time going to restore the **kingdom to Israel?***”

使徒の働き 1 章 6 節—6 そこで、彼らは、いっしょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。

「主よ。今こそ、**イスラエルのために国を**再興してくださるのですか。」

No wonder, our Lord Jesus had to teach them continually about the spiritual nature of His kingdom. He had to correct their notion of a political, human kingdom to that of God's plan.

主イエスが、ご自分の王国の霊的な性質について、人々に絶えず教え続けなければならなかったのも不思議ではありません。王国とは政治的で人間のためのものだという彼らの考えを、神の計画に合ったものに変えていかなければならなかったのです。使徒の働き 1 章 7 – 8 節をお読みします。

Acts 1:7~8 – ⁷He said to them: “*It is not for you to know the times or dates the Father has set by his own authority. ⁸But you will receive power when the Holy Spirit comes on you; and you will be my witnesses in Jerusalem, and in all Judea and Samaria, and to the ends of the earth.*”

使徒の働き 1章7-8節—7 イエスは言われた。「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくてもよいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」

C. So, from then on in Acts, ***the kingdom of God*** is often used as a synonym for the gospel or good news.

C. ですから、それ以降に書かれた『使徒の働き』の中では、**神の国は**、しばしば福音や良い知らせの代名詞として使われています。

神の国の教えが正されていることが、使徒の働き8章と19章から読みとることができます。

Acts 8:12 – But when they believed Philip as he proclaimed ***the good news of the kingdom of God*** and ***the name of Jesus Christ***, they were baptized, both men and women.

使徒の働き 8章12節—12 しかし、ピリポが**神の国**と**イエス・キリストの御名について宣べるのを**信じた彼らは、男も女もバプテスマを受けた。

Acts 19:8 - Paul entered the synagogue and spoke boldly there for three months, arguing persuasively about ***the kingdom of God***.

使徒の働き 19章8節—8 それから、パウロは会堂に入って、三か月の間大胆に語り、**神の国**について論じて、彼らを説得しようと努めた。

The kingdom of God, therefore, is the good news about Jesus Christ and His role in that kingdom.

したがって、『神の国』とは、イエス・キリストとその国でのイエスの役割や働きのことを指しています。そして、『イエスとイエスの働きに関する良い知らせ』自体が、『神の国』だということを理解しないといけないのです。

II. Kingdom of God in Pauline Epistles

では、ここで、パウロが『神の国』についてどのように書いているのかを見ていきましょう。

II. パウロ書簡における神の国

Paul does not discuss the kingdom of God to the same extent that Jesus did. However, the theme is present in his teaching. There are two (2) notable aspects of Paul's teaching about the kingdom.

パウロは、神の国についてイエスと同じことを書いてはいません。しかし、この『神の国』と言うテーマは彼の教えの中に存在していました。パウロの神の国についての教えの中で、注目すべき点が2つあります。

In 1 Corinthians 15:23~24, Paul states that, at the Second Coming and at the resurrection of Christians, Jesus will hand *the kingdom of God* over to the Father after ***“He has destroyed all dominion, authority and power.”***

注目すべき点は、

パウロが、コリント人への手紙第一 15 章 23~24 節で、イエスの再臨とクリスチャンの復活のとき、『キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国を父なる神にお渡しになる』のだ、と言っていることです。

It is like a *conquistador* (conqueror) claiming and subjugating foreign lands, territories and peoples in the name of his benefactor king.

それは、コンキスタドルである征服者が、善き（よき）王の名の元に、外国の土地、外国の領土、異民族を服従させようとしているようなことを意味します。

ILLUSTRATION: Do you know why my native country is named the Philippines? Here's bit of our history. The arrival of Ferdinand Magellan, a Portuguese explorer leading a fleet for Spain, marked the beginning of Spanish colonization. In 1543, Spanish explorer Ruy López de Villalobos named the archipelago Las Islas Filipinas in honor of King Philip II of Spain. Spanish settlement through Mexico, beginning in 1565, led to the Philippines becoming ruled by the Spanish Empire for more than 300 years.

征服といえば、ここで少し、フィリピン のことについてお話ししましょう。皆さん、私の母国がなぜフィリピンという名前なのかご存知ですか？私たちの国フィリピンの歴史を少し紹介しましょう。スペインの艦隊を率いたポルトガルの探検家、フェルディナンド・マゼランがフィリピン の地に足を踏み入れたことが、スペインによる植民地化の始まりでした。1543 年、スペインの探検家、**ルイ・ロペス・デ・ビリャロボス**は、スペイン王フィリップ 2 世に敬意を表して、それらの島の群れを『フィリピナス諸島』と名付けました。1565 年に始まったメキシコを経由したスペイン人の植民地化により、フィリピンは 300 年以上にわたってスペイン帝国に支配されることになったという歴史があります。

Speaking of Christ, Paul notes in …

パウロは、コリント人への手紙 第一 15 章で、キリストについて次のように記しています。

1 Corinthians 15:25 - *For he [Jesus] **must reign** until he has put all his enemies under his feet.*

コリント人への手紙 第一 15 章 25 節—25 キリストの支配は、すべての敵をその足の下に置くまで、と定められているからです。

1 Corinthians 15:28 - *When he has done this, then the Son himself will be made subject to him [God the Father] **who put everything under him**, so that God may be all in all.*

コリント人への手紙 第一 15 章 28 節—28 しかし、万物が御子に従うとき、御子自身も、ご自分に万物を従わせた方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。

B. Furthermore, Paul teaches that the kingdom has both **present and future dimensions**.

次に、パウロの教えで注目すべき二つ目の点です。

B.さらに、パウロは、神の国には『今』と『未来』の両方の次元があると教えています。

1. The kingdom is ***a present blessing*** for those who have been delivered from the powers of darkness to the kingdom of Christ (Rom 14:17; 1 Cor 4:20; Col 1:13).

1. 神の国とは、暗闇の力からキリストの王国に引き渡された人々にとって、**今ある祝福**なのです。（ローマ14:17; 1コリ4:20; コリ1:13）『今』の祝福のことが、次のそれぞれの聖書箇所にかかれてあります。お読みします。

Romans 14:17 - *For the kingdom of God is not a matter of eating and drinking, but of **righteousness, peace and joy in the Holy Spirit**,*

ローマ人への手紙 14 章 17 節—17 なぜなら、神の国は飲み食いのことではなく、**義と平和と聖霊による喜びだから**です。

1 Corinthians 4:20 - *For the kingdom of God is not a matter of talk but of **power**.*

コリント人への手紙 第一 4章20節—20 神の国はことばではなく、**力**にあるのです。

Colossians 1:13 - *For he has **rescued us** from the dominion of darkness and **brought us into the kingdom of the Son he loves,***

コロサイ人への手紙 1章13節—13 神は、私たちを暗やみの圧制から救い出して、**愛する御子のご支配の中に移してくださいました。**

2. Concerning the future aspect of the kingdom of God, only true followers of Christ, demonstrating the work of the Holy Spirit in their lives by bearing fruit of a virtuous lifestyle will inherit the kingdom.

2. 神の国の『未来』の側面については、キリストの真の信者で、高潔な生き方をし、生活の中で聖霊の働きを示し、その実を結んでいる者だけが、神の国を受け継ぐことができると言っています。それは、神の国を将来に向かって受け継ぐという『未来』の側面を指しています。次のそれぞれの聖書箇所、高潔な生き方について書かれていますので、お読みします。

1 Corinthians 6:9~10 (NET) - *Do you not know that the unrighteous will not inherit the kingdom of God? Do not be deceived! The sexually immoral, idolaters, adulterers, passive homosexual partners, practicing homosexuals,¹⁰ thieves, the greedy, drunkards, the verbally abusive, and swindlers **will not inherit the kingdom of God.***

コリント人への手紙 第一 6章9 - 10節—9 あなたがたは、正しくない者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけません。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、10 盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そして、略奪する者はみな、**神の国を相続することができません。**

Galatians 5:19~21 - ¹⁹ *The acts of the flesh are obvious: sexual immorality, impurity and debauchery;* ²⁰ *idolatry and witchcraft; hatred, discord, jealousy, fits of rage, selfish ambition, dissensions, factions and envy; drunkenness, orgies, and the like. I warn you, as I did before, that those who live like this **will not inherit the kingdom of God.***

ガラテヤ人への手紙 5章19 - 21節—19 肉の行いは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、21 ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです。前にもあらかじめ言ったように、私は今も

あなたがたにあらかじめ言っておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。

1 Thessalonians 2:12 - *encouraging, comforting and urging you to live lives worthy of God, who calls you into his kingdom and glory.*

テサロニケ人への手紙 第一 2章12節—12 ご自身の御国と栄光とに召してくださる神にふさわしく歩むように勧めをし、慰めを与え、おごそかに命じました。

III. Kingdom of God in the General Letters

では、次に、聖書の他の書では『神の国』についてどのように書かれているのか見てみましょう。

III. 一般書簡における『神の国』

A. In Hebrews, the unshakable kingdom is the heavenly Jerusalem—a city yet to come.

A. ヘブライ人への手紙の中では、揺り動かされない御国と書かれており、天にあるエルサレム、つまり、未だない都のことを指しています。ヘブル人への手紙12章を読んでみましょう。

Hebrews 12:22 & 28 - ²² *But you have come to Mount Zion, to the city of the living God, the heavenly Jerusalem. You have come to thousands upon thousands of angels in joyful assembly...*

²⁸ *Therefore, since we are receiving a kingdom that cannot be shaken, let us be thankful, and so worship God acceptably with reverence and awe,*

ヘブル人への手紙12章22、28節—22 しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。

28 こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けているのですから、感謝しようではありませんか。こうして私たちは、慎みと恐れとをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができるのです。

B. In 2 Peter 1:5~11, Christians are encouraged to cultivate certain virtues so that they may enter the everlasting kingdom of the Lord and Savior Jesus Christ.

また、

B. ペテロの手紙第二1章5~11節では、主であり救い主であるイエス・キリストの永遠の御国に入るために、クリスチャンは、ある美德を養うようにと勧められています。そのことが、ペテロの手紙 第二1章に書かれています。

2 Peter 1:10~11 -¹⁰ Therefore, my brothers and sisters, make every effort to confirm your calling and election. For if you do these things, you will never stumble, ¹¹ and **you will receive a rich welcome into the eternal kingdom of our Lord and Savior Jesus Christ.**

ペテロの手紙 第二1章10 - 11節—10 ですから兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行っていれば、つまりくことなど決してありません。

11 このようにあなたがたは、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの永遠の御国に入る恵みを豊かに加えられるのです。

IV. Kingdom of God in Revelation

The kingdom of God is a main theme in Revelation (Rev 1:6, 9, 5:10; 11:17; 12:10; 19:6; 20:4; 22:5). Seven trumpets announce the final triumph of the kingdom of God and Christ:

では、『**ヨハネの黙示録**』には、神の国のことがどう書かれているのか、みてみましょう。

IV. ヨハネの黙示録における神の国

神の国は黙示録の主要テーマとなります。(1:6, 9, 5:10; 11:17; 12:10; 19:6; 20:4; 22:5 参照)。
ヨハネの黙示録 11章に書かれている7つのラッパとは、神とキリストの王国の最終的な勝利のことを表しています。

Revelation 11:15 - “The kingdom of the world has become the kingdom of our Lord and of his Messiah, and he will reign for ever and ever.”

ヨハネの黙示録 11章15節—15 第七の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、天に大きな声々が起こって言った。「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。」

Conclusion/Application

When we consider the many shades of meaning pertaining to the kingdom of God, we soon realize that it's spiritual nature finds impetus in the life of the believer.

神の国にまつわるさまざまな意味を考えると、神の国の霊的な性質は、信者たちの生活の中に原動力を見出させてくれることに気づかされます。

- It means faithful preaching of the good news of Jesus Christ.
- It means a promise of blessing that can be experienced in the here and now as well as a compelling motivation to live holy lives.
- Finally, it means the assurance of our security in God's presence and a sure victory against all evil both now and forevermore.

神の国が信者に与えてくれる原動力は、

- それは、イエス・キリストの良い知らせを忠実に伝えようと思わせてくれます。

- それは、今ここで経験できる祝福という約束を与えてくれて、聖なる生活を送るための力強い動機や目的をくれます。

- それは、神がいてくださるという安心をくれます。そして、今も昔もすべての悪に対する確かな勝利を保証してくれるのです。

Let us pray.